

=====

Research Institute for Humanity and Nature:

Sato Project

人と自然：環境思想セミナー Information 2009.07.21. (fri.)

=====

夏、こんな風でしたね——kurata

■vol.23「身体環境としての衣服」

2009. 08. 14. (fri.) 15:00-17:00 地球研・講演室

講師：鷺田清一さん（哲学者・大阪大学総長）

おかげさまでこのセミナーも三年目を迎えました。

仰々しく「環境思想」なんて銘打っていますが、ことさら思想を扱うことは避けてきました。どこかで聞いたようなフレーズをいたずらに並べるばかり、そんな通りいっぺんの思想には、正直もうウンザリ。それに、いわゆる環境を云々するわけでもないのです、ここでは。そんなものがはじめからあるわけじゃない。あるのはただ、その時々を経験の中から出てくる、ひと言——それだけ。それを見失わないようにすること、ただそれだけ。言葉は整理されていなくてもいい、何を感じたのか、個々人の息づかいを確かめるところから、いま本当に必要とされている思想のかたちを探ること、それが「環境思想」ということなのです。

「環境」＝「臨床」

今回の講師、哲学者の鷺田清一さんの言葉を借りれば、そう言えるかもしれません。鷺田さんは、日常性と乖離した従来の哲学のあり方にゆさぶりをかけ、現場に即した哲学、「臨床哲学」を提唱してこられました。

「身体と衣服の関係は、身体とそれを保護するもの、遮蔽するものとの関係ではない。衣服抜きに人間の身体は考えられない。自／他、内／外という概念枠ではとらえられないものとして、身体と衣服との関係はある。身体と衣服とのこうした関係のありようをベースとして、わたしたちと環境との関係を考えなおしてみる。」(鷺田清一 環境思想セミナーに寄せて)

私たちにいちばん身近な衣服と身体の関係に着目し、そこから環境との関わりを問い直すのが、今回のねらい。既成の概念枠の克服は、単に新しい言葉を持ち込むだけでなく、そもそも別なる思想のフェーズを探ることになるでしょう。

みなさまのご参加、心よりお待ちしております。

[司会進行・お問い合わせ先]

鞆田 崇（地球研 プロジェクト上級研究員、環境思想セミナー担当）

京都市北区上賀茂本山 457-4 〒603-8047

kurata@chikyu.ac.jp tel: 075/707/2382（直） fax. 075/707/2508

<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project/thought.html>

人と自然：環境思想セミナー vol.23

身体環境としての衣服

話し手：鷺田清一さん
哲学者・大阪大学総長

聞き手：鞍田崇
総合地球環境学研究所上級研究員

2009. 08. 14. (fri) 15:00 - 17:00

総合地球環境学研究所(地球研)・講演室

主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域プロジェクト
「農業が環境を破壊するとき」(里プロジェクト)

<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project>



身体環境としての衣服

+Fashion (2001 - 2002 Autumn and Winter Fashion Products)
Conceptual Sketch

animal skin

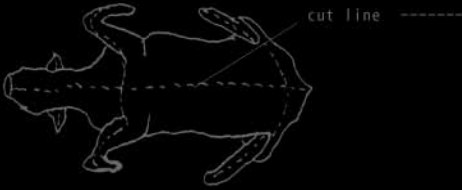


Diagram of cut line on cow's skin

human being's skin

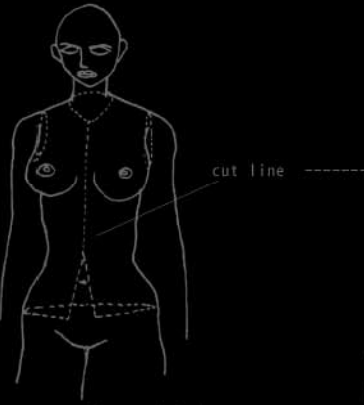
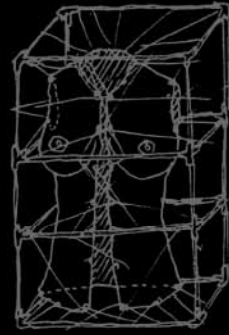


Diagram of cut line on part of human being's body on which clothes are based.



iron frame: l. 550 X w. 550 X ht. 800 X φ5 ~ 6
wire: φ0.5

Basic shape of clothes can be decided by the same technique for keeping the correct dimensional shape as with the cow's skin.

animal skin



iron frame: l. 1000 X w. 2400 X ht. 1500 X φ15
wire: φ3

Technique for keeping the correct dimensional shape of cow's skin during tanning process:
steaming, heating, drying repeatedly

身体と衣服の関係は、身体とそれを保護するもの、遮蔽するものとの関係ではない。衣服抜きに人間の身体は考えられない。自／他、内／外という概念枠ではとらえられないものとして、身体と衣服との関係はある。身体と衣服とのこうした関係のありようをベースとして、わたしたちと環境との関係を考えなおしてみる。 — 鷲田清一

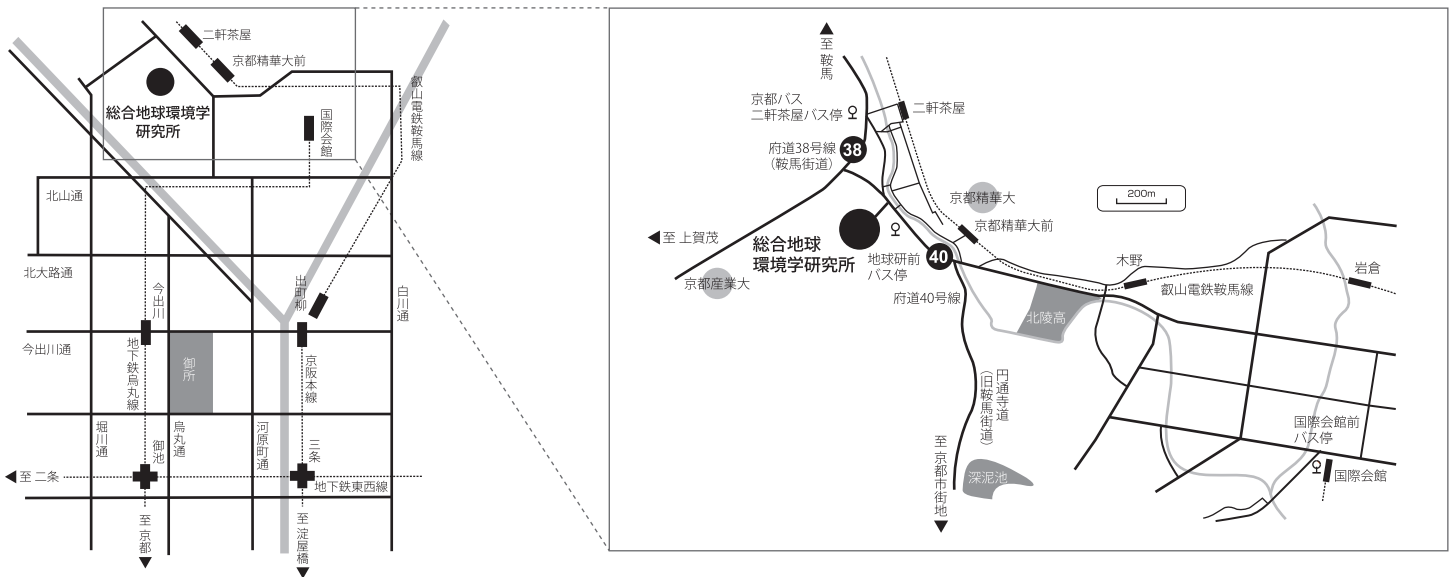


鷲田清一 WASHIDA Kiyokazu 哲学者・大阪大学総長

1949年京都市生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院文学研究科博士課程修了。関西大学文学部教授、大阪大学文学部教授、同学部長などを経て、2007年より現職。専攻は哲学・倫理学。メルロ＝ポンティをはじめ、20世紀フランス・ドイツの現象学に関する緻密な研究をベースに、独自の身体論・モード論を手がけてきた。従来の哲学のイメージを覆すとともに、近年は「臨床哲学」の立場を提唱している。

主な著書に、『顔の現象学—見られることの権利』（講談社学術文庫）、『じぶん—この不思議な存在』（講談社現代新書）、『「哲学」と「てつがく」のあいだ』（みすず書房）、『「聴く」ことの一—臨床哲学試論』（桑原武夫学芸賞）、『臨床とことば—心理学と哲学のあわいに探る臨床の知』（河合隼雄共著、以上、阪急コミュニケーションズ）、『く弱さ』のちから—ホスピタブルな光景』（講談社）、『「待つ」ということ』（角川選書）、『喃みきれない想い』（角川学芸出版）など多数。モード論・身体論の著書に、『モードの迷宮』（サントリー学芸賞）、『ちぐはぐな身体—ファッションって何？』（以上、ちくま学芸文庫）、『悲鳴をあげる身体』（P H P 新書）、『ひとはなぜ服を着るのか』（NHKライブラリー）などがある。

ACCESS MAP



■ JR「京都駅」・近鉄「京都駅」・阪急「烏丸駅」より
京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。国際会館駅バスターミナル2番乗場から
京都バス40系統（京都産業大学ゆき）もしくは50系統（市原ゆき）にて（約10分）、「地球研前」下車スグ。

■ 京阪「出町柳駅」より
叡山電鉄鞍馬線に乗り換え、「京都精華大前」もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

※マイカーの利用はご遠慮ください。

聴講無料・申込不要

お問合せ | 環境思想セミナー担当 鞍田崇（地球研・上級研究員）
075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyu.ac.jp

主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」（里プロジェクト）

次回予告： vol.24 2009年9月16日(水) 「生きているスローフード—椎葉村だより」
講師・飯田辰彦（ノンフィクション作家）



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所(地球研)
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
http://www.chikyu.ac.jp